


## 第1章 新市の概要

### 1 地域（菊池市・七城町・旭志村・泗水町）の概況

#### (1) 現況

菊池北部地域（菊池市・七城町・旭志村・泗水町）の概況は以下のようになっています。

	菊池市	七城町	旭志村	泗水町
市町村章				
面積	182.60 Km <sup>2</sup>	20.50 Km <sup>2</sup>	46.59 Km <sup>2</sup>	26.97 Km <sup>2</sup>
	＜四市町村計 276.66 Km <sup>2</sup> ＞			
人口	27,342 人	5,838 人	5,407 人	14,049 人
	＜四市町村計 52,636 人＞			
世帯数	8,690 世帯	1,569 世帯	1,447 世帯	4,196 世帯
	＜四市町村計 15,902 世帯＞			
人口密度	149.7 人/Km <sup>2</sup>	284.8 人/Km <sup>2</sup>	116.1 人/Km <sup>2</sup>	520.9 人/Km <sup>2</sup>
市町村制施行	昭和 33 年	昭和 43 年	昭和 31 年	昭和 36 年
市町村の花	きく	コスモス	コスモス	コスモス
市町村の木	さくら	きんもくせい	もみじ	さざんか

（人口・世帯数は平成 12 年国勢調査より）

位置図



## (2) 位置・地勢

菊池北部地域は、熊本県北東部に位置し、東部は阿蘇地域、南部は菊池南部地域、西部は山鹿鹿本地域、北部は大分県日田地方にそれぞれ接しています。菊池北部地域四市町村を合わせた形状は扇形となっています。

地勢は、北部の八方ヶ岳から東部の阿蘇外輪山の鞍岳まで山岳が連なっており、地域の大半を森林が占めています。それら山岳からの豊富な水が菊池川本流をはじめとして迫間川、河原川、合志川に流れており、菊池平野を潤し、肥沃な土地を形成しています。

## (3) 歴史

本地域内の菊池市隈府は、延久2年藤原則隆公が菊池氏の姓を名乗って以来、菊池氏24代約500年に亘り九州における政治・文化の中心地として栄え、政治、教育、文化面において大きく影響を与えており、現在でも多くの遺跡が残っています。

その後、藩政期においても隈府は良質な菊池米の集散地となり、商業都市として発展してきました。明治期においては、藩政時代に基礎がつけられた良質の城北米(菊池米)の生産と農業技術の改良によって「肥後農法」が確立された地域であり、その中でも七城町では先駆的な暗きょ排水技術が確立されました。

明治22年、市町村制度の実施により本地域は菊池郡・合志郡の2郡に制度化され、その後明治29年には合併により菊池郡になりました。

さらに昭和28年の町村合併促進法の制定により本地域においても町村合併が行われ、市制、町制を敷き1市2町1村となって現在に至っています。

これらの歴史的背景を基調基盤として、すぐれた自然環境のもとで、新たな地域づくりが進められています。四市町村の明治22年の市町村制施行からの合併等による沿革は、次のとおりです。

### ■菊池市

菊池市は、江戸時代には菊池郡河原手永・深川手永に属し、河原手永会所を隈府に、深川手永会所を袈裟尾に置いていました。その後、明治22年に町村制が施行され、隈府町・河原村・水源村・迫間村・龍門村・菊池村・花房村・戸崎村が誕生しました。昭和31年9月1日、国の方針と関係町村民の要望に応じて8ヶ町村が合併し「菊池町」が誕生しました。

昭和32年2月1日からは、菊鹿村の堀切、稗方が菊池町に合併し、さらに、昭和33年8月1日には「菊池市」となっています。

### ■七城町

七城町は、江戸時代には菊池郡河原手永・深川手永・合志郡竹迫手永に属し21ヶ村によって構成されていました。その後、明治22年に町村制が施行された際、砦村・加茂川村・合志郡清泉村が誕生しました(明治29年に合志郡は菊池郡と合併しています。)。さらに、昭和29年11月1日に菊池郡のトップを切って「七城村」が誕生しました。翌昭和30年4月1日に大字亀尾の一部が泗水村に編入するために分村されています。

その後、昭和43年11月1日に町制が施行され、「七城町」となっています。

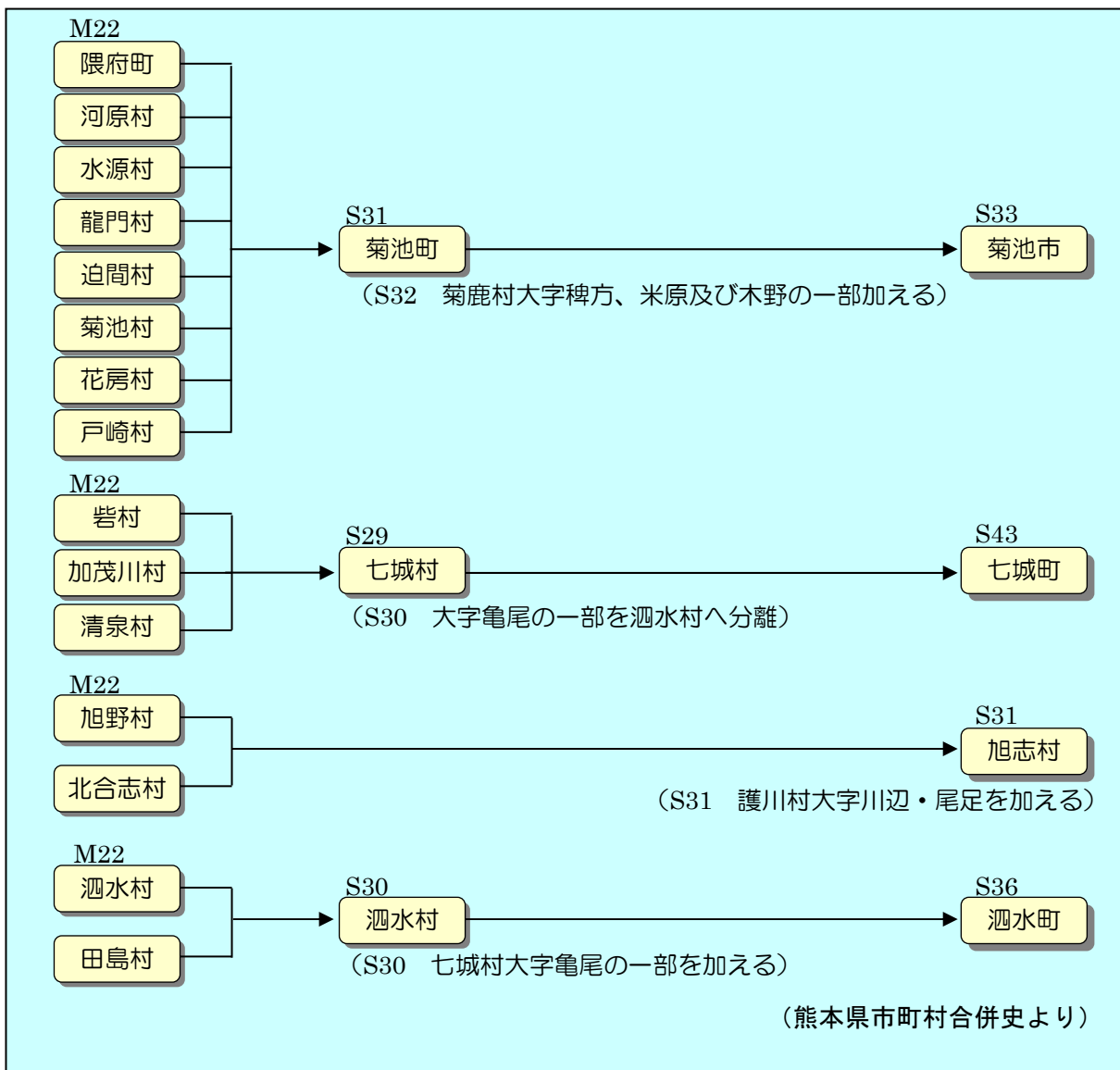
### ■旭志村

旭志村は、江戸時代には菊池郡河原手永・合志郡大津手永に属し11ヶ村によって構成されていました。その後、明治22年に町村制が施行された際、菊池郡旭野村・合志郡北合志

村が誕生しました。さらに、昭和31年5月1日に2村が合併し「旭志村」が誕生しました。同年8月1日に護川村大字川辺・尾足が編入されて現在に至っています。

■ 泗水町

泗水町は、藩政時代には合志郡竹迫手永に属し、江戸末期には手永会所が福本に移され竹迫手永の政治・経済の中心的な役目を果たしました。明治20年には西部5ヶ村（泗水・清泉・西合志・合志・田島）教育土木組合が設立され、高等小学校を開校するなど、広域行政の先駆的な取り組みがなされています。明治22年の町村制施行で、「泗水村」と「田島村」が誕生し、昭和30年4月に泗水村と田島村及び七城村大字亀尾の一部である三万田の合併により、泗水村が発足します。さらに、昭和36年4月には町制を施行して「泗水町」となりました。



## 2 地域の現状と課題

### (1) 人口・世帯数の推移

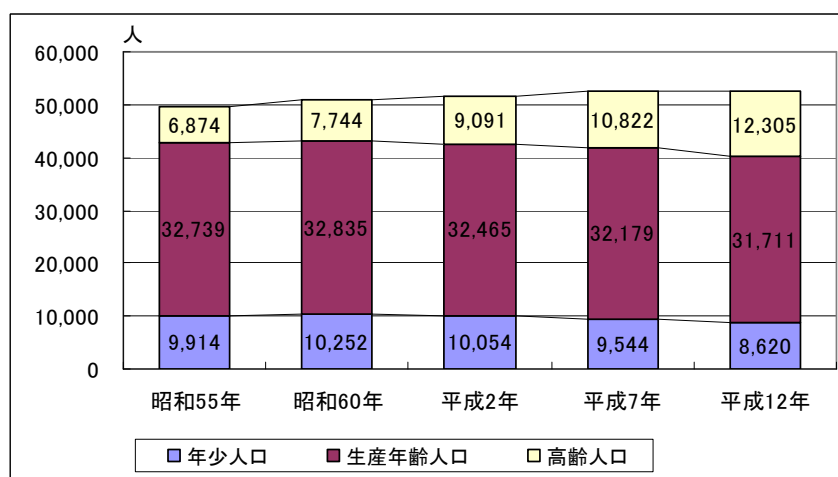
菊池北部地域各市町村の人口の推移をみると、菊池市はやや減少傾向で、七城町と旭志村は横ばい傾向ですが、泗水町が増加傾向であり、全体として増加傾向を示しています。平成12年現在の四市町村を合わせた人口は52,636人となっています。また、年少人口比は、昭和55年には20.0%であったものが、平成12年には16.4%と減少しており少子化が進行していることがうかがえます。

一方、高齢人口比をみると、昭和55年に13.9%であったものが、平成12年には23.4%と増加し高齢化が進行しています。

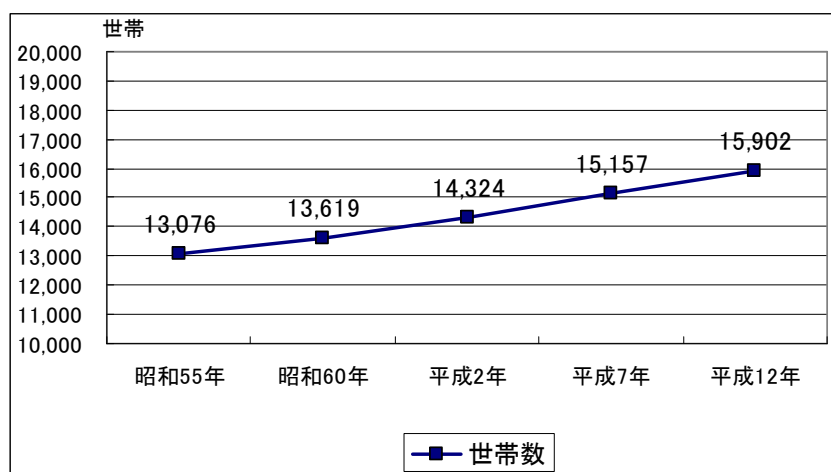
また、世帯数の推移をみると、本地域全体では増加傾向にあり、昭和55年に13,076世帯であったものが、平成12年には15,902世帯と増加しています。1世帯当たり世帯人員は、昭和55年で3.78人/世帯であり、平成12年には3.3人/世帯と核家族化が進行していると考えられます。

今後は、少子高齢化や核家族化への対応策が必要です。

【人口と年齢3分類別の構成比（四市町村合計）】



【世帯数の推移（四市町村合計）】



【総人口・世帯数・年少人口・高齢人口の推移（国勢調査）】

【総人口の推移（単位：人）】

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
菊池市	28,460	28,518	28,166	27,987	27,342
七城町	5,760	5,837	5,883	5,822	5,838
旭志村	5,367	5,384	5,490	5,410	5,407
泗水町	9,940	11,092	12,071	13,326	14,049
合計	49,527	50,831	51,610	52,545	52,636

【世帯数の推移（単位：世帯）】

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
菊池市	7,890	7,977	8,304	8,543	8,690
七城町	1,397	1,411	1,427	1,490	1,569
旭志村	1,291	1,313	1,375	1,387	1,447
泗水町	2,498	2,918	3,218	3,737	4,196
合計	13,076	13,619	14,324	15,157	15,902

【年少人口の推移（0～14歳）（単位：人）】

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
菊池市	5,703	5,604	5,232	4,877	4,308
七城町	1,096	1,142	1,191	1,060	956
旭志村	1,113	1,132	1,079	975	893
泗水町	2,002	2,374	2,552	2,632	2,463
合計	9,914	10,252	10,054	9,544	8,620

【年少人口比（単位：%）】

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
菊池市	20.0	19.7	18.6	17.4	15.8
七城町	19.0	19.6	20.2	18.2	16.4
旭志村	20.7	21.0	19.7	18.0	16.5
泗水町	20.1	21.4	21.1	19.8	17.5
合計	20.0	20.2	19.5	18.2	16.4

【高齢人口の推移（65歳以上）（単位：人）】

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
菊池市	4,025	4,499	5,129	6,050	6,706
七城町	859	963	1,203	1,377	1,532
旭志村	750	813	989	1,193	1,375
泗水町	1,240	1,469	1,770	2,202	2,692
合計	6,874	7,744	9,091	10,822	12,305

【高齢人口比（単位：%）】

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
菊池市	14.1	15.8	18.2	21.6	24.5
七城町	14.9	16.5	20.4	23.7	26.2
旭志村	14.0	15.1	18.0	22.1	25.4
泗水町	12.5	13.2	14.7	16.5	19.2
合計	13.9	15.2	17.6	20.6	23.4

**(2) 年齢階層別人口の推移**

男女合計5歳階級別人口をみると、昭和55年、平成12年ともに「ひょうたん型（世代によって人口割合にばらつきがある）」の傾向が見られますが、特に平成12年に関してはその世代間のばらつきに著しい差を見ることができます。

女性の平均初産年齢は28.2歳（厚生労働省2001年人口動態統計）であり、男女ともに20代後半から30代及び彼らの子どもと想定できる0歳～9歳の人口が昭和55年比べて著しく減少しています。

全国平均としては50代前半と、20代後半に人口の集中が見られていますが（ベビーブーム、第二次ベビーブームの影響）、菊池北部では、40代後半から50代前半と、10代前半から10代後半に人口の集中が見られます。

全国平均と比較すると、20代前半から30代前半までの人口の減少が特徴的であるといえます。

これは全国的な大学・短期大学進学率と熊本県内の失業率の高さに起因すると考えられます。昭和40年に17.0%（昭和55年当時の30代前半の世代が該当）だった進学率は、昭和60年には36.3%（平成12年当時の30代前半の世代が該当）と倍増しています。

一方、熊本県内の完全失業率は、昭和45年には2.0%（全国平均1.3%、全国順位43位）、平成2年には3.2%（全国平均3.0%、全国順位33位）であり、全国平均と比較すると高い状況にあったといえます。

菊池北部四市町村出身の高校生の多くは、進学・就職の際に熊本を離れて、そのまま都市部で就職したものと考えられ、この傾向は現在でも続いていると推測されます。

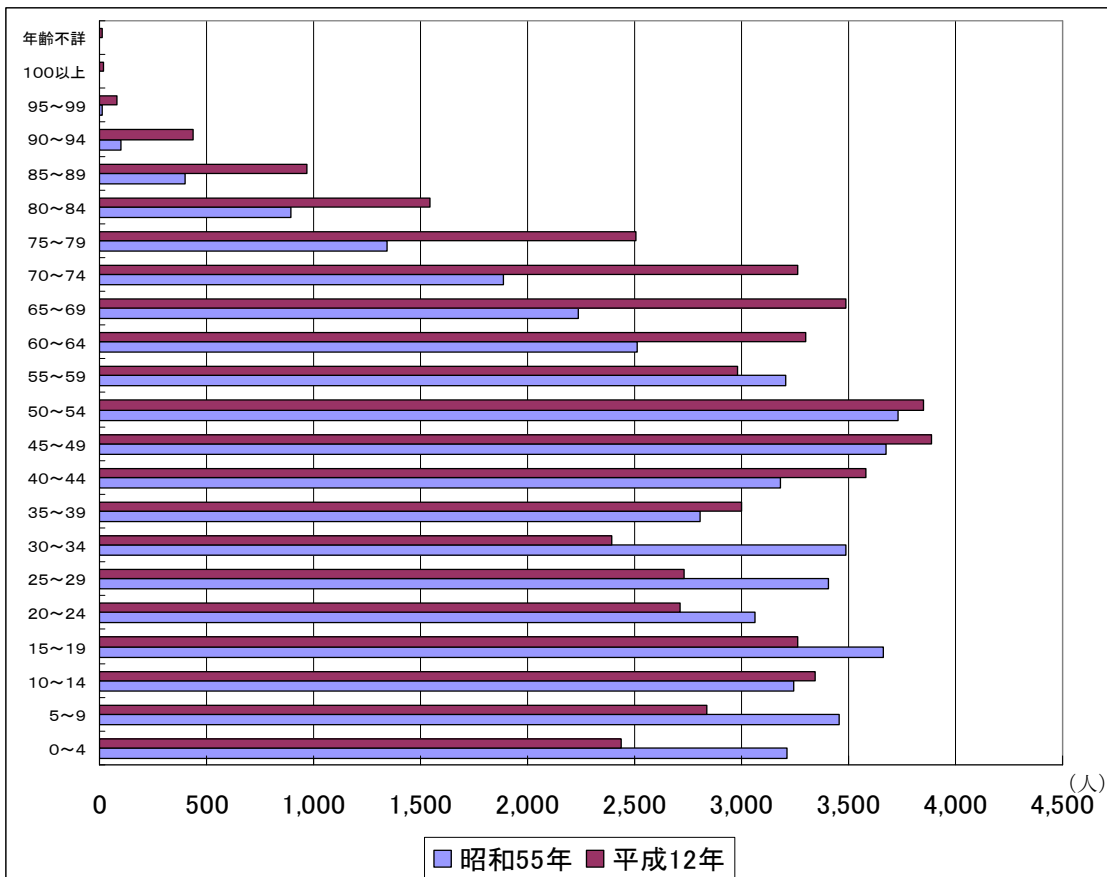
【5歳階級別人口の推移（国勢調査・単位：人・%）】男女合計

年 齢	昭和55年									
	菊池市		七城町		旭志村		泗水町		合計	
	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合
0～4	1,784	6.3%	400	6.9%	365	6.8%	665	6.7%	3,214	6.5%
5～9	2,019	7.1%	325	5.6%	403	7.5%	710	7.1%	3,457	7.0%
10～14	1,900	6.7%	371	6.4%	345	6.4%	627	6.3%	3,243	6.5%
15～19	1,975	6.9%	375	6.5%	332	6.2%	983	10.0%	3,665	7.4%
20～24	1,723	6.1%	352	6.1%	319	5.9%	670	6.7%	3,064	6.2%
25～29	1,898	6.7%	413	7.2%	422	8.0%	673	6.8%	3,406	6.9%
30～34	2,050	7.2%	364	6.3%	390	7.3%	684	6.9%	3,488	7.0%
35～39	1,657	5.8%	291	5.1%	270	5.0%	586	5.9%	2,804	5.7%
40～44	1,851	6.5%	363	6.3%	330	6.1%	636	6.4%	3,180	6.4%
45～49	2,150	7.6%	439	7.7%	363	6.8%	725	7.3%	3,677	7.4%
50～54	2,182	7.6%	439	7.7%	419	7.8%	693	7.0%	3,733	7.6%
55～59	1,801	6.3%	444	7.8%	377	7.0%	586	5.9%	3,208	6.5%
60～64	1,445	5.1%	325	5.6%	282	5.3%	462	4.6%	2,514	5.1%
65～69	1,340	4.7%	279	4.8%	243	4.5%	373	3.8%	2,235	4.5%
70～74	1,108	3.9%	220	3.8%	222	4.1%	338	3.4%	1,888	3.8%
75～79	778	2.7%	157	2.7%	146	2.7%	263	2.6%	1,344	2.7%
80～84	505	1.8%	133	2.3%	85	1.6%	171	1.7%	894	1.8%
85～89	229	0.8%	55	1.0%	39	0.7%	74	0.7%	397	0.8%
90～94	55	0.2%	14	0.2%	14	0.3%	18	0.2%	101	0.2%
95～99	10	0.0%	1	0.0%	1	0.0%	2	0.0%	14	0.0%
100以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	1	0.0%
年齢不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総数	28,460	100.0%	5,760	100.0%	5,367	100.0%	9,940	100.0%	49,530	100.0%

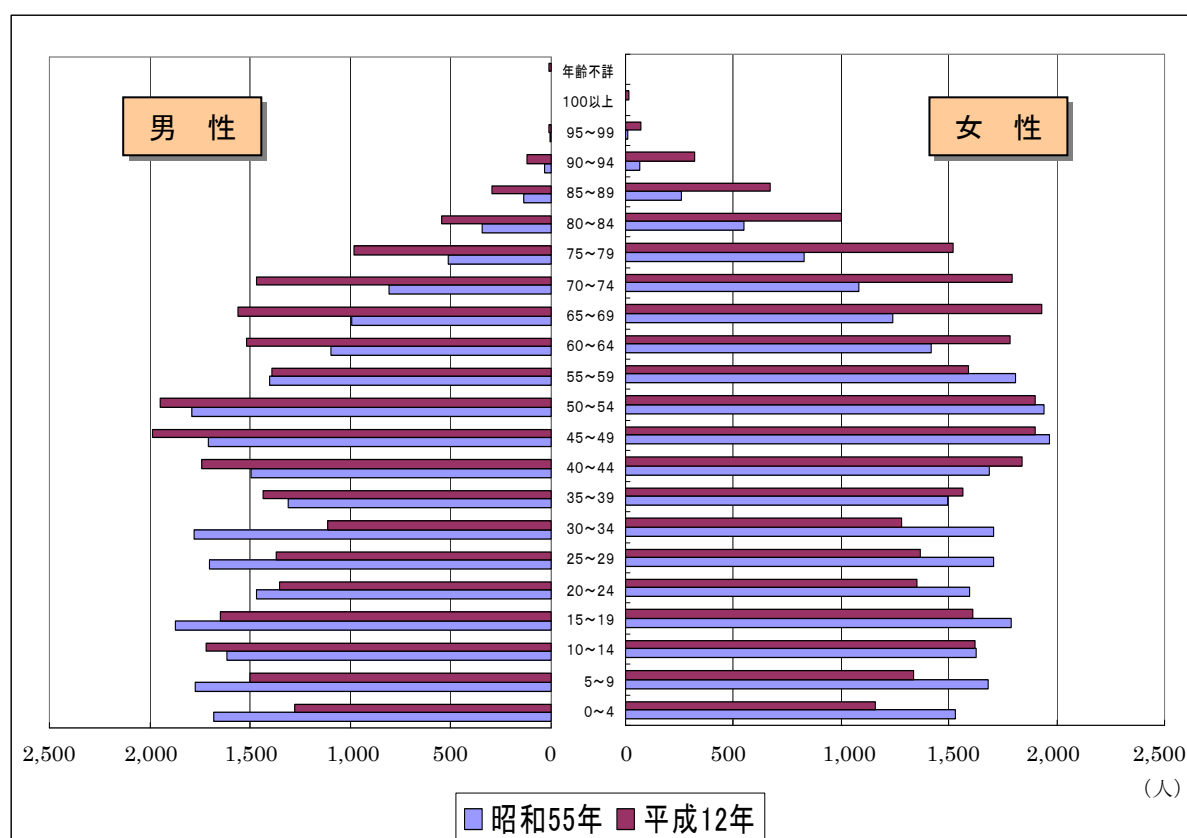
第1章 新市の概要

年 齢	平成12年									
	菊池市		七城町		旭志村		泗水町		合計	
	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合
0～4	1,235	4.5%	263	4.5%	267	4.9%	673	4.8%	2,438	4.6%
5～9	1,414	5.2%	291	5.0%	305	5.6%	830	5.9%	2,840	5.4%
10～14	1,659	6.1%	402	6.9%	321	5.9%	960	6.8%	3,342	6.3%
15～19	1,629	6.0%	367	6.3%	324	6.0%	940	6.7%	3,260	6.2%
20～24	1,329	4.9%	292	5.0%	273	5.0%	816	5.8%	2,710	5.1%
25～29	1,432	5.2%	257	4.4%	272	5.0%	772	5.5%	2,733	5.2%
30～34	1,271	4.6%	235	4.0%	218	4.0%	670	4.8%	2,394	4.5%
35～39	1,562	5.7%	301	5.2%	312	5.8%	823	5.9%	2,998	5.7%
40～44	1,789	6.5%	396	6.8%	350	6.5%	1,046	7.4%	3,581	6.8%
45～49	1,940	7.1%	452	7.7%	396	7.4%	1,101	7.8%	3,889	7.5%
50～54	1,991	7.3%	379	6.5%	390	7.3%	1,091	7.7%	3,851	7.4%
55～59	1,599	5.8%	315	5.4%	272	5.0%	795	5.7%	2,981	5.7%
60～64	1,786	6.5%	356	6.1%	332	6.1%	826	5.9%	3,300	6.3%
65～69	1,903	7.0%	407	7.0%	363	6.7%	817	5.8%	3,490	6.6%
70～74	1,790	6.5%	370	6.3%	376	7.1%	725	5.2%	3,261	6.2%
75～79	1,331	4.9%	355	6.1%	299	5.5%	519	3.7%	2,504	4.8%
80～84	858	3.1%	200	3.4%	178	3.3%	310	2.2%	1,546	2.9%
85～89	537	2.0%	137	2.3%	95	1.8%	198	1.4%	967	1.8%
90～94	233	0.9%	52	0.9%	55	1.0%	97	0.7%	437	0.8%
95～99	47	0.2%	8	0.1%	7	0.1%	22	0.2%	84	0.2%
100以上	7	0.0%	3	0.1%	2	0.0%	4	0.0%	16	0.0%
年齢不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	14	0.1%	14	0.0%
総数	27,342	100.0%	5,838	100.0%	5,407	100.0%	14,049	100.0%	52,636	100.0%

【男女合計5歳階級別人口（昭和55年・平成12年国勢調査）】



【男女別5歳階級別人口（昭和55年・平成12年国勢調査）】



### (3) 日常生活圏の拡大

日常生活圏について、通勤・通学圏をみると、他市町村への流出割合は、菊池市が約3割、七城町及び旭志村が約4割、泗水町が約6割となっています。最も多い流出先は菊池市が熊本市、七城町が菊池市、旭志村が菊池市、泗水町が熊本市となっています。

一方、最も多い流入先は、全て熊本市であり、2番目に多い流入先は菊池市が泗水町、七城町が植木町、旭志村が菊池市、泗水町が菊池市となっています。

また、各市町村の買物場所をみると、全市町村において菊池市と熊本市への買物割合が高くなっており、熊本市を除くと、菊池市を中心とした商圏が形成されていることが分かります。

これらのことから、菊池市を中心とした1市2町1村相互の結びつきや熊本市との結びつきが高いといえます。

今後は、日常生活圏の連携を深めるとともに、住民の交通利便性向上を図るため、道路・交通体系や公共交通機関の充実が必要です。また、菊池市を中心とした消費動向があることから中心商業地として活性化する必要があります。

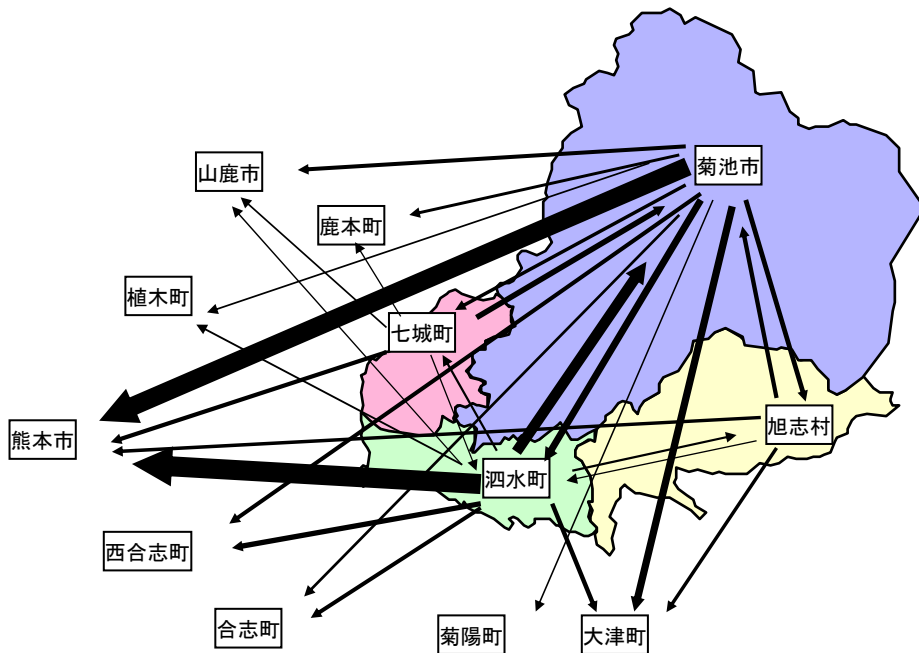


【通勤・通学圏（流出先）の状況（平成12年国勢調査）】

流出

菊池市		七城町		旭志村		泗水町		
就業者・通学者	15,103	就業者・通学者	3,398	就業者・通学者	3,010	就業者・通学者	7,853	
自市町村内	10,272	自市町村内	1,927	自市町村内	1,734	自市町村内	3,389	
他市町村合計	4,831	他市町村合計	1,471	他市町村合計	1,276	他市町村合計	4,464	
流出先	熊本市	1,468	菊池市	432	菊池市	334	熊本市	1,558
	大津町	554	熊本市	336	熊本市	271	菊池市	796
	泗水町	532	山鹿市	127	大津町	270	西合志町	416
	旭志村	361	鹿本町	104	泗水町	111	大津町	346
	山鹿市	318	泗水町	100			合志町	311
	西合志町	304					七城町	177
	七城町	264					旭志村	172
	鹿本町	221					植木町	140
	合志町	205					山鹿市	111
	植木町	130						
	菊陽町	111						

※流出先は流出人口100人以上の市町村を掲載（単位：人）

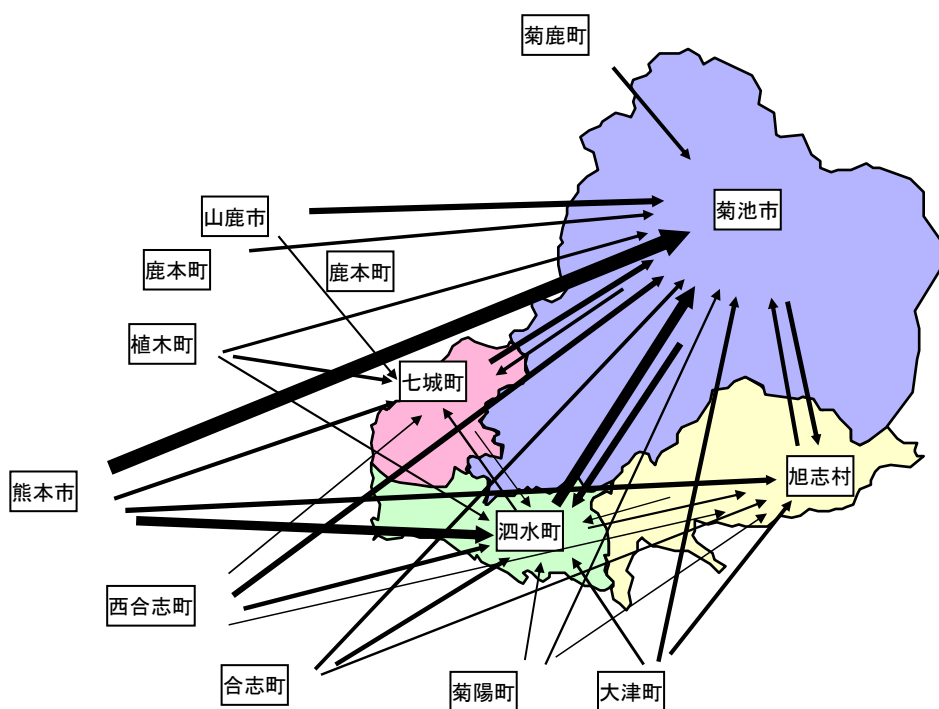


【通勤・通学圏（流入先）の状況（平成12年国勢調査）】

流入

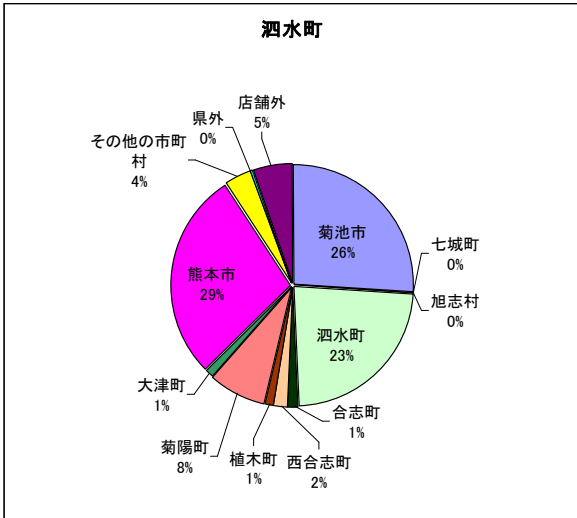
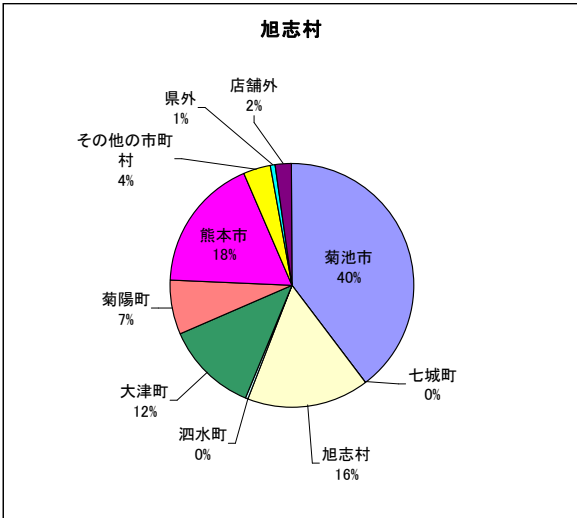
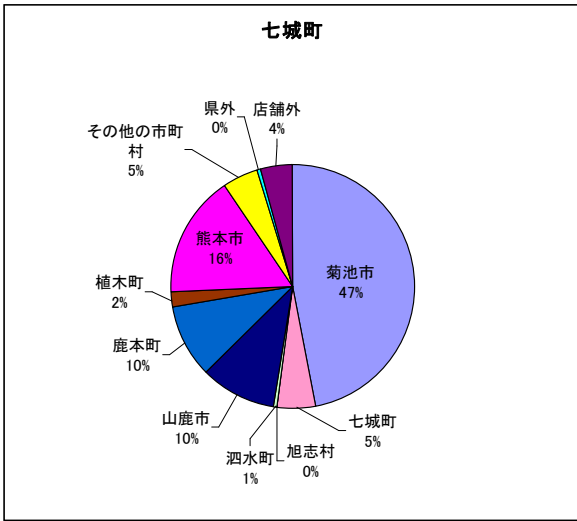
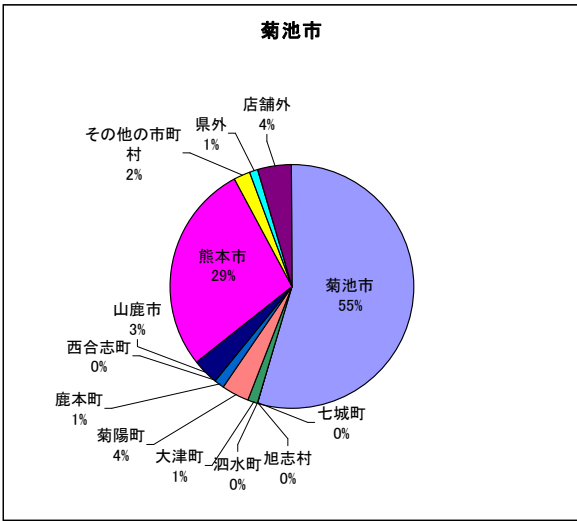
	菊池市		七城町		旭志村		泗水町	
	就業者・通学者		就業者・通学者		就業者・通学者		就業者・通学者	
就業者・通学者	16,008		3,742		3,776		6,559	
自市町村内	10,272		1,927		1,734		3,389	
他市町村合計	5,736		1,815		2,042		3,170	
流入先	熊本市	1,105	熊本市	307	熊本市	412	熊本市	710
	泗水町	796	植木町	266	菊池市	361	菊池市	532
	山鹿市	458	菊池市	264	大津町	313	合志町	352
	西合志町	439	泗水町	177	合志町	187	西合志町	337
	七城町	432	山鹿市	161	泗水町	172	大津町	225
	大津町	366	西合志町	122	菊陽町	119	植木町	162
	旭志村	334			西合志町	118	菊陽町	154
	菊鹿町	288					旭志村	111
	合志町	284					七城町	100
	鹿央町	265						
	植木町	231						
	菊陽町	179						

※流入先は流入人口100人以上の市町村を掲載（単位：人）



【買物場所の状況（平成12年度熊本県消費動向調査報告書）】

	菊池市		七城町		旭志村		泗水町	
買物先	菊池市	54.3%	菊池市	46.9%	菊池市	39.7%	熊本市	28.4%
	熊本市	27.9%	熊本市	16.4%	熊本市	17.9%	菊池市	26.2%
	菊陽町	3.8%	鹿本町	9.9%	旭志村	16.2%	泗水町	23.1%
	山鹿市	3.3%	山鹿市	9.8%	大津町	12.2%	菊陽町	7.7%
	大津町	1.3%	七城町	5.1%	菊陽町	7.4%	西合志町	1.9%



## (4) 産業の状況

本地域の産業別就業者数をみると、平成12年現在で、第1次産業5,433人(20.6%)、第2次産業7,689人(29.1%)、第3次産業13,293人(50.3%)となっています。構成比を熊本県平均と比較すると、本地域の基幹産業である農林水産業が含まれる第1次産業の比率がかなり高くなっており、サービス産業等の第3次産業の比率が低くなっています。

また、産業別の生産額をみると、平成12年現在で、第1次産業約204億円(9.7%)、第2次産業約817億円(38.7%)、第3次産業1,092億円(51.7%)となっており、経年的には、第2次産業及び第3次産業が増加しており、第1次産業は、平成2年をピークに減少傾向にあります。

今後は、第1次産業においては、担い手農家や農業法人の育成、新規就農の促進、農業技術の向上及び観光との連携等が必要であり、第2次産業においては、地域住民の就労の場の確保や低迷する市町村財政の安定化のために更なる企業誘致が必要です。また、第3次産業においては、消費者ニーズに対応した個性的で魅力的な活力ある商業の振興が必要です。

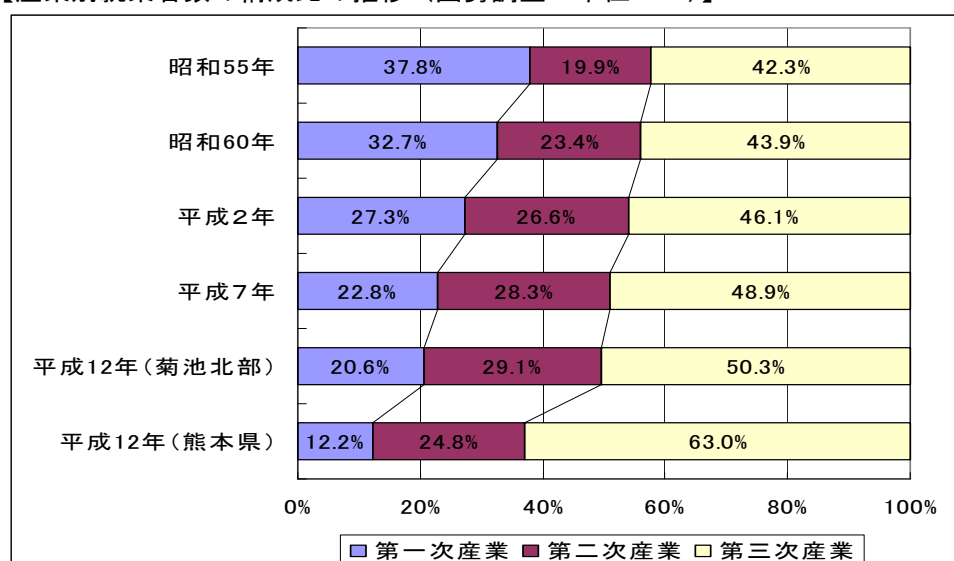
【産業別就業者数(昭和55年国勢調査・単位:人)】

	菊池市	七城町	旭志村	泗水町	合計
第一次産業	4,746	1,722	1,406	1,791	9,665
第二次産業	2,811	514	648	1,100	5,073
第三次産業	6,921	935	748	2,207	10,811
分類不能	6	0	0	1	7
合計	14,484	3,171	2,802	5,099	25,556

【産業別就業者数(平成12年国勢調査・単位:人)】

	菊池市	七城町	旭志村	泗水町	合計
第一次産業	2,448	1,041	934	1,010	5,433
第二次産業	3,902	721	739	2,327	7,689
第三次産業	7,306	1,282	1,037	3,668	13,293
分類不能	7	2	11	13	33
合計	13,663	3,046	2,721	7,018	26,448

【産業別就業者数の構成比の推移(国勢調査・単位:%)】



(5) 道路・交通の状況

本地域内の道路は、国道 325 号、国道 387 号が菊池市街地を中心に放射状に配置されており、県道及びその他主要な道路が国道を補完しています。

また、本地域に隣接する植木町には、九州自動車道植木 I C が位置するとともに、国道 3 号が南北方向に通っています。

平成 11 年道路交通センサスによると、国道 325 号の大江町から菊池市街地までが 20,889 台/日、国道 387 号の熊本市方面から菊池市街地までが 14,503 台/日、国道 325 号の菊池市街地から鹿本町方面が 10,014 台/日と国道の交通量が多くなっています。

公共交通機関は、路線バスのみとなっています。

今後は、交流促進と新市の一体性の速やかな確立のため、国道 325 号の 4 車線化や国道 387 号の機能強化とこれらを補完する県道及びその他主要な道路の機能強化及び公共交通機関の充実や少子高齢化等に対応するためコミュニティバスの整備が必要です。

(6) 教育・福祉の状況

ア 教育

本地域内には、幼稚園が 5 箇所、小学校 14 校、中学校 5 校あり、児童生徒数は、減少傾向であり、平成 12 年現在で、幼稚園児 509 人、小学生 3,626 人、中学生 2,071 人となっています。また、近年の児童生徒の状況は、教育制度の充実とともに学校外での教育機会が増えた一方で、いじめや不登校の問題、青少年非行の低年齢化、家庭や地域における教育力の低下等、教育環境において深刻な問題も生じています。

今後は、学校と家庭・地域との連携を深めるとともに、教職員の資質や指導力の向上及び少人数指導の充実等、これまで以上に教育環境の充実と特色ある教育の推進が必要です。

【幼稚園の状況（学校基本調査）】

市町村	幼稚園									
	園数					園児数(人)				
	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年
菊池市	2	2	2	2	2	332	311	289	273	271
七城町	1	1	1	1	1	95	99	101	107	107
旭志村	1	1	1	1	1	56	43	40	36	41
泗水町	1	1	1	1	1	86	90	90	90	90
合計	5	5	5	5	5	569	543	520	506	509

【小学校の状況（学校基本調査）】

市町村	小学校									
	学校数					児童数(人)				
	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年
菊池市	9	9	9	9	9	2,048	1,996	1,957	1,896	1,788
七城町	1	1	1	1	1	483	467	459	414	388
旭志村	1	1	1	1	1	396	390	382	377	359
泗水町	3	3	3	3	3	1,131	1,091	1,095	1,070	1,091
合計	14	14	14	14	14	4,058	3,944	3,893	3,757	3,626

【中学校の状況（学校基本調査）】

市町村	中学校									
	学校数					生徒数(人)				
	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年
菊池市	3	3	3	3	2	1,103	1,108	1,113	1,074	1,031
七城町	1	1	1	1	1	262	260	254	261	264
旭志村	1	1	1	1	1	229	230	217	214	205
泗水町	1	1	1	1	1	554	555	566	565	571
合計	6	6	6	6	5	2,148	2,153	2,150	2,114	2,071

## イ 福祉

前述の人口・世帯数の推移からも分かるように、本地域においても少子高齢化が進んでいます。また、福祉においては、高齢者・障害者ニーズが多様化しています。

今後は、高齢者・障害者福祉においては、高齢者や障害者が生きがいを持って生活できるように、家庭や地域の中で暮らしやすい環境づくりを促進する必要があります。

また、児童福祉においては、次世代を担う子どもたちを安心して産み、健やかに育てることができるように子育て支援の充実を図る必要があります。

## 【社会福祉施設設置状況】

市町村	生活保護施設		老人福祉施設						児童福祉施設				知的障害者支援施設		その他 隣保館	
	救護施設		養護老人ホーム		特別養護老人ホーム		老人福祉センター	老人憩いの家	保育所		児童遊園	児童センター	知的障害者更生及び授産施設			
	所数	定員	所数	定員	所数	定員	所数	所数	所数	定員	所数	所数	所数	定員		所数
菊池市			1	50	1	120	1		10	800	1	1	1	1	50	1
七城町					1	30	1		3	180				1	30	
旭志村					1	58		1	3	210						
泗水町	1	50	1	50	1	30			5	390			1	50		
合計	1	50	2	100	4	238	2	1	21	1,580	1	1	3	130	1	

## (7) 公共施設の配置状況

公共施設の配置状況は、それぞれ各市町村の中心部に集中しており、地域全体では、南西部の市街地に片寄っています。

今後は、近接している施設等の統合や、施設・サービスの空白地区への新規設置等、新市として効率的な施設配置を検討する必要があります。

しかしながら、これらの施設は特に住民生活との関わりが深いものであるため、住民生活への影響に十分配慮するとともに、地域特性や地域のバランス、あるいは財政事情も考慮の上検討を進めていく必要があります。

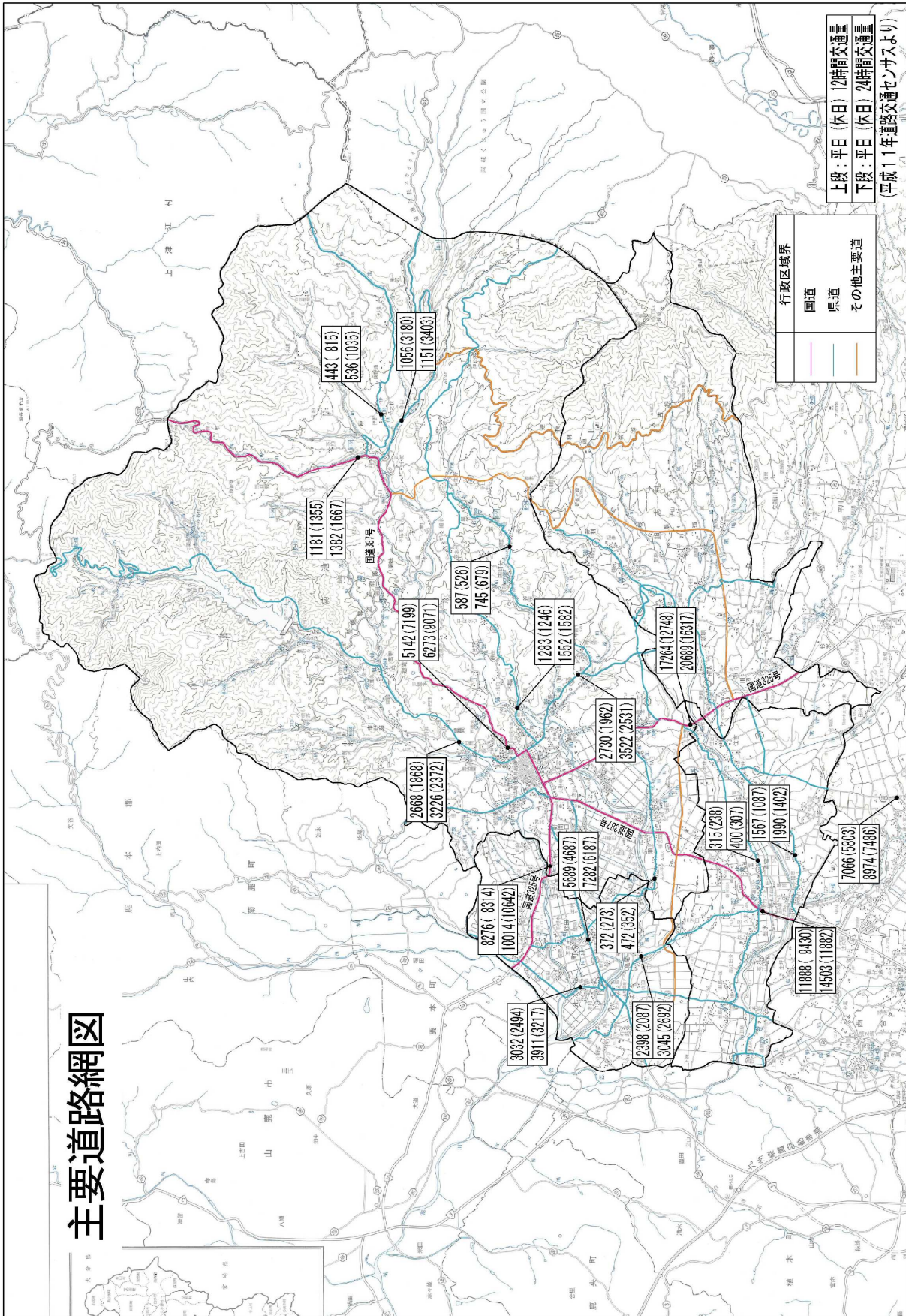
## (8) 行政運営面等における他市町村との連携状況

行政運営面等における他市町村との連携状況は、下表に示すように、菊池郡市を中心として一部事務組合等が組織され、市町村の枠を超えた広域的な行政運営が行われています。

今後は、広域的な行政需要を的確に把握し、効率的で質の高い行政サービスを提供していくために、重複する一部事務組合等の再編や計画圏域等の見直しを検討する必要があります。

(下表中、●は事務所所在地)

区分	共同処理する事務	菊池市	七城町	旭志村	泗水町	その他特記事項
菊池広域連合	菊池広域市町村圏計画策定及び連絡調整事務、広域行政体制の整備、職員の集合研修、火葬場の設置・管理運営、介護認定審査会の設置・運営	●	○	○	○	大津町、菊陽町、合志町、西合志町
菊池広域行政事務組合	ごみ処理、し尿処理、消防、救急、特別養護老人ホーム	●	○	○	○	泗水町は特別養護老人ホームのみ
菊池養生園保健組合	診療所、結核健康診断車、健康管理センター	○	○	○	●	合志町、西合志町
菊池台地総合土地改良事業組合	菊池台地総合土地改良事業	●	○	○	○	大津町、合志町、西合志町、他鹿本郡市5市町
菊池南部清掃組合	ごみ処理、し尿処理				○	●大津町、菊陽町、合志町、西合志町
菊池消防組合	消防、救急				○	大津町、●菊陽町、合志町、西合志町







(9) 行財政の状況

ア 財政の状況

財政状況については、各市町村ごとに普通会計の歳入、歳出及び各種財政指数を整理しました。各項目の数値は、単年度決算のものを用いると、その年度の投資的経費の多寡により平常年と大きく乖離する場合がありますことから、平成12年度から平成14年度までの3ヶ年の平均を用いています。

四市町村の歳出総額は約240億円で、歳出規模は類似団体をやや上回っています。

財政力指数<sup>※1</sup>については、類似団体を下回っています。また、経常収支比率<sup>※2</sup>については、類似団体を上回っている団体もあり、やや財政構造の硬直化が進んでいます。さらに、公債費負担比率<sup>※3</sup>も類似団体を上回る団体もあり、公債費の負担が多いことがうかがえますが、地方交付税による財源措置分を除いた指数である起債制限比率<sup>※4</sup>では、類似団体をそれほど上回らないことから、公債費の多くは地方交付税により措置されているものと思われます。

全体としては、類似団体より大きく劣る指数はなく、これまでの財政運営の努力がうかがえるところですが、将来的には地方交付税の削減等市町村の一般財源の減少が見込まれる中、行政改革を含めた財政運営の健全化への取組みが必要です。

次頁に示す歳入内訳をみると、四市町村の地方交付税の合計が約94億円であり、類似団体<sup>※5</sup>が約83億円で差額が約11億円となっています。今後、地方交付税は、削減されていく方向であり、こういった状況に対応するため、財政の効率化・健全化が必要です。

性質別歳出金額をみると、類似団体との差額が大きい項目として、投資的経費が約16億円、人件費が約7億円、物件費約5億円、公債費約4億円高くなっており、効率的・効果的な財政運営が必要です。

【主な財政指数の状況（平成12年～14年度決算平均・人口は平成12年国勢調査）】

	歳出総額 (千円)	財政力指数 (3年平均)	経常収支 比率(%)	公債費負担 比率(%)	起債制限 比率(%)
菊池市	11,233,238	0.386	84.8	14.5	9.6
七城市	4,249,500	0.249	72.1	19.3	6.1
旭志村	3,882,826	0.270	89.2	21.6	11.2
泗水町	4,573,478	0.378	79.8	12.6	7.6
合計	23,939,042	0.350	82.3	15.7	8.8
類似団体	21,368,005	0.440	86.3	15.6	10.1

※1 財政力指数・・・ 地方公共団体が合理的かつ妥当な水準において行政を行った場合に必要とする一般財源に対して、標準的な状態において徴収が見込まれる税収入等がどれだけあるのかを示すもの。当該指数が大きくなるほど財源に余裕があるとされる。

式：財政力指数＝基準財政収入額÷基準財政需要額・・・（過去3年間の平均）

※2 経常収支比率・・・ 財政構造の弾力性を示す指標で、当該指数が大きくなるほど弾力性が失いつつあると考えられる。

式：経常収支比率＝経常経費充当一般財源÷経常一般財源×100（%）

※3 公債費負担比率・・・ 公債費による財政負担の度合いを示す指標。

式：公債費充当一般財源÷一般財源総額×100（%）

※4 起債制限比率・・・ 公債費比率の算定式の分母と分子から事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費を控除した算式により得られた比率の過去3年度間の平均値。20%を超えると、一部の地方債を許可しないものとされる。

式：起債制限比率＝（公債費充当一般財源－公債費に係る基準財政需要額－事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費）÷（標準財政規模－公債費に係る基準財政需要額－事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費）×100（%）

## 【歳入内訳（平成12年～14年度決算平均）（単位：千円）】

	菊池市	七城町	旭志村	泗水町	合計	類似団体	差
歳入合計	11,712,042	4,485,600	4,076,519	4,963,490	25,237,651	21,937,264	3,300,387
地方税	2,587,760	510,579	506,386	1,214,347	4,819,072	4,623,441	195,631
地方交付税	4,553,711	1,582,194	1,416,400	1,869,751	9,422,056	8,312,803	1,109,253
その他一般財源	706,536	149,317	147,900	306,336	1,310,089	1,142,201	167,888
使用料手数料	231,967	221,414	33,437	76,686	563,504	430,931	132,573
国庫支出金	1,024,170	365,562	356,304	282,910	2,028,946	2,111,493	-82,547
県支出金	804,257	399,376	355,106	247,952	1,806,691	1,256,106	550,585
財産収入	21,505	44,175	5,796	7,670	79,146	150,328	-71,182
寄付金	1,502	28,287	11,150	190	41,129	6,580	34,550
繰入金	40,530	192,763	48,207	150,420	431,920	118,010	313,910
繰越金	485,318	148,877	161,038	205,291	1,000,524	726,587	273,937
諸収入	143,764	96,938	76,816	62,657	380,175	663,740	-283,565
地方債	905,952	664,900	881,335	362,033	2,814,220	2,054,278	759,942
その他の収入	205,070	81,218	76,644	177,247	540,179	340,765	199,414

(類似団体の歳入) = (類似団体の人口一人あたり歳入) × (四市町村の平成12年国勢調査人口)

## 【性質別歳出金額（平成12年～14年度決算平均）（単位：千円）】

	菊池市	七城町	旭志村	泗水町	合計	類似団体	差
歳出合計	11,233,238	4,249,500	3,882,826	4,573,478	23,939,042	21,368,005	2,571,037
人件費	2,467,464	649,579	654,386	954,923	4,726,352	4,034,760	691,592
扶助費	1,237,492	216,585	261,649	541,418	2,257,144	2,495,525	-238,381
公債費	1,353,850	533,904	518,861	522,184	2,928,799	2,520,738	408,061
物件費	1,073,062	502,441	255,195	586,465	2,417,163	1,919,898	497,265
維持補修費	57,697	10,350	14,788	37,142	119,977	280,234	-160,257
補助費等	1,324,727	395,371	363,323	560,851	2,644,272	2,774,128	-129,856
繰出金	1,234,726	291,279	186,467	560,545	2,273,017	1,917,793	355,224
積立金	144,089	285,308	9,120	35,944	474,461	315,921	158,540
投資・出資金・貸付金	85,067	0	1,465	753	87,285	550,625	-463,340
前年度繰上充用金	0	0	0	0	0	174,120	-174,120
投資的経費	2,255,064	1,364,683	1,617,572	773,253	6,010,572	4,384,263	1,626,309
普通建設事業(補助)	596,952	821,710	734,037	50,049	2,202,748	1,737,672	465,076
普通建設事業(単独)	1,196,032	461,102	714,926	632,381	3,004,441	2,576,637	427,804
普通建設事業(災害復旧事業を除くその他)	153,757	81,871	123,783	88,054	447,465	0	447,465
災害復旧事業費	308,323	0	44,826	2,769	355,918	69,953	285,965

(類似団体の歳出) = (類似団体の人口一人あたり歳出) × (四市町村の平成12年国勢調査人口)

※5 類似団体・・・産業構造や人口の観点から市町村を一定の類型に従って分けたものです。同規模・同程度の市町村との比較を行うための尺度となります。なお、類似団体の指数の値は加重平均で算出しています。

本区域の類型は、1市2町1村の総人口（平成12年国勢調査）が52,636人で、第二次、第三次産業の割合は79.4%、第三次産業の割合は50.3%であることから、I-1類型（人口35,000人～55,000人、第二次・第三次産業合計85%未満、第三次産業50%～85%）に分類されます。

イ 職員の状況

各市町村の議員数、職員数は以下のようになっています。

(ア) 議員

議員数については、各市町村の条例定数の合計は60人ですが、新市の法定上限数は、30人となります。

なお、合併協議会において、新市の条例定数は28人に決定しています。ただし、平成18年5月末までは在任特例を適用し、現議員数(59人)となります。

【議員数の状況(平成15年4月1日現在、単位:人)】

	菊池市	七城町	旭志村	泗水町	合計	新市
法定上限数	26	18	18	22	84	30
条例定数	20	14	12	14	60	28
任期	H17.3.31	H19.4.30	H17.4.30	H19.5.1	-	-

(イ) 職員

職員については、合計567人であり、その内訳は、一般行政関係424人、教育関係96人、公営事業会計関係47人となっています。

年齢別にみると、29歳以下が118人、30代が123人、40代が151人、50歳以上が175人となっており、50歳以上の割合が高くなっています。合併にあたっては、定年退職者等を考慮しながら、人員配置計画を作成し、職員数の適正化を図る必要があります。

【職員数の状況(平成15年4月1日現在、単位:人)】

	菊池市	七城町	旭志村	泗水町	合計
職員数合計	299	73	72	123	567
一般行政関係	220	61	52	91	424
教育関係	44	9	15	28	96
公営事業会計関係	35	3	5	4	47

【年齢別職員数の状況(平成15年4月1日現在、単位:人)】

	菊池市	七城町	旭志村	泗水町	合計
職員数合計	299	73	72	123	567
24歳以下	25	9	3	5	42
25～29	36	10	7	23	76
30～34	37	7	8	22	74
35～39	25	8	9	7	49
40～44	27	6	11	25	69
45～49	46	5	14	17	82
50～54	58	21	14	15	108
55歳以上	45	7	6	9	67

**(10) 四市町村の特徴ある主要施策**

四市町村が現在、取り組んでいる施策の中から、特徴ある主要施策について整理します。

**菊池市****➤ 市民主体の地域運営を進める**

- ◇ パブリックコメントの制度化・まちづくり基本条例によるコミュニティづくり
- ◇ 職員の資質の向上、ワンストップサービスの実施、行政評価システムの導入
- ◇ 電子自治体の構築
- ◇ 韓国人入国ビザの恒久免除、構造改革特区の提案

**➤ 未来に伝える基盤を整える**

- ◇ 国道325号等の4車線化等の広域幹線道路と生活道路の整備（隈府中央線、亘甲森線の整備等）
- ◇ 太陽光発電施設の設置推進
- ◇ 交通弱者の足の確保（便利カー）
- ◇ 人と菊池川のふれあいの場としての整備（菊池川水辺公園、菊池公園の整備等）
- ◇ ごみの減量化、広域汚泥再生処理センターの建設
- ◇ 公共下水道の推進

**➤ 豊かな産業を展開する**

- ◇ 有畜農家と耕種農家の連携による環境保全型農業
- ◇ 地域特性を生かした特産品や高付加価値特産品の開発
- ◇ 認定農業者の育成支援や生産組織の育成
- ◇ 中山間地直接支払制度の推進（農用地の集積と荒廃防止）
- ◇ 花房台地区の開発推進
- ◇ 菊池東部中山間総合整備事業の推進
- ◇ 木材流通の活性化、林業・木材産業の連携体制の構築
- ◇ 中心市街地の活性化（隈府中央地区まちづくり総合支援事業等の推進等）
- ◇ 商工観光の情報収集と各種イベントの企画
- ◇ 斑蛇口湖の観光拠点としての活用
- ◇ グリーンツーリズム（観光と農林業の連携）
- ◇ 新たな菊池観光のイメージの創出
- ◇ 企業誘致の推進

**➤ 暮らしの豊かさを高める**

- ◇ 健診及び相談の実施
- ◇ 保健・福祉センターの建設推進
- ◇ 総合的な子育て支援対策の推進
- ◇ 身体障害福祉・知的障害福祉の措置制度から支援費制度に移行
- ◇ 介護保険事業の運営と介護予防・生活支援事業の推進
- ◇ 地域を生かした創意あふれる教育活動の推進
- ◇ 小中学校の指導体制の充実や教育環境の整備
- ◇ 人権を尊重する社会構築
- ◇ 豊かで活力のある生涯スポーツの実現

- ◇ 地域情報化の推進
- ◇ 福祉サービス応援特区の取組み
- ◇ 男女共同参画

### 七城町

- **豊かな生活環境の構築と自然環境の保全**
  - ◇ 下水道事業の推進
  - ◇ ごみステーションの設置
  - ◇ 町道整備の推進
  - ◇ 河川環境整備事業（花による演出）と河川歩道空間の整備
  
- **豊かな町づくりの担い手となる豊かなひとづくり**
  - ◇ 学校、家庭、地域社会が協力しあえる環境づくり
  - ◇ 教育環境の充実
  - ◇ 生涯学習や生きがい対策
  
- **誰もが健康で生き生きと暮らせる環境づくり**
  - ◇ 各種の検診業務をはじめ健康教室、相談業務等の充実
  - ◇ 乳幼児健診、母子相談、放課後学童保育による子育て支援等の充実
  - ◇ 住民ニーズに合わせた施設の充実
  
- **魅力ある農業の振興**
  - ◇ 農村総合整備事業や土地改良事業の継続
  - ◇ 農産物の情報複合施設の建設
  - ◇ 畜産公害の解消と畜産振興総合対策事業の継続
  - ◇ 後継者育成

### 旭志村

- **地域の特性に応じた農林業の振興**
  - ◇ 菊池東部中山間総合整備事業の推進
  - ◇ 中山間地直接支払制度の推進
  
- **次代を担う商工業の振興と自然環境を生かした観光の振興**
  - ◇ 企業誘致（川辺工業団地内）
  - ◇ ふれあいセンターや四季の里旭志の活用
  
- **高齢者福祉の充実**
  - ◇ 介護サービスの充実と予防対策の推進
  - ◇ 生涯学習やスポーツレクリエーション活動の充実
  
- **快適な生活環境の村づくり**
  - ◇ 簡易水道事業の推進
  - ◇ 村道改良の推進
  - ◇ 小学校に新エネルギーの導入（太陽光発電装置）

➤ **その他**

- ◇ 人権を尊重する社会構築

**泗水町**

➤ **地域に密着した福祉の充実と人づくり**

- ◇ ボランティア活動による心の通う福祉の町づくりの推進
- ◇ 生涯学習環境の整備
- ◇ 教育の充実

➤ **農工商一体となった産業振興**

- ◇ 農業の流通体制の充実、高度技術の導入
- ◇ 組織化農業の推進
- ◇ 消費者が利用しやすい町並みの整備
- ◇ 優良企業の誘致

➤ **安全で住み良い環境の整備**

- ◇ 緑地と住宅地等の均衡と調和に配慮した土地利用を推進
- ◇ 道路網の整備、上下水道の整備
- ◇ 集落景観の保全、自然に調和した公共施設のデザイン化

➤ **情報化にふさわしい体制の整備**

- ◇ 行政情報の電子化とその総合的利用、事務事業のシステム化
- ◇ 公共施設間のネットワーク化の推進、町民への情報発信

(11) 現状と課題のまとめ

これまでの現状と課題を整理します。

項目	現状	課題
人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>菊池市はやや減少傾向、七城町と旭志村は横ばい、泗水町が増加傾向であり、全体として増加傾向。</li> <li>平成12年現在の人口は52,636人、少子高齢化が進行。</li> <li>将来人口は、コーホート要因法※による推計で平成27年には総人口51,200人で、年少人口7,800人、生産人口29,200人、高齢人口14,200人になると想定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>菊池北部では現在までに総人口の増加はみられるものの、年少人口、生産年齢人口は減少を続けていることから、今後は人口減少に転じていくものと考えられます。人口減少に歯止めをかけるためには、人口増加を図るための政策を行う必要があります。</li> </ul>
日常生活圏	<ul style="list-style-type: none"> <li>他市町村への流出割合は、菊池市が約3割、七城町及び旭志村が約4割、泗水町が約6割</li> <li>最も多い流出先は菊池市が熊本市、七城町が菊池市、旭志村が菊池市、泗水町が熊本市。</li> <li>最も多い流入先は、全て熊本市。2番目に多い流入先は菊池市が泗水町、七城町が植木町、旭志村が菊池市、泗水町が菊池市。</li> <li>各市町村の買物場所は、全市町村において菊池市と熊本市への買物割合が高い。</li> <li>熊本市を除くと、菊池市を中心とした商圈が形成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>菊池市を中心とした1市2町1村相互の結びつきや熊本市との結びつきが高い状況にあり、今後は、日常生活圏の連携を深めるとともに、住民の交通利便性向上を図るため、道路・交通体系や公共交通機関の充実が必要です。</li> <li>菊池市を中心とした消費動向があることから中心商業地として活性化する必要があります。</li> </ul>

※コーホート要因法・・・人口を年齢別に5歳ごとの階層に分け、各階層が5年ごとに1階層上がる際、どれだけ増減するかを計算する人口推計の一般的な方法です。この推計では、今後の政策的な要因による人口増加は含まれていません。

項目	現状	課題
産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成12年現在で、第1次産業5,433人(20.6%)、第2次産業7,689人(29.1%)、第3次産業13,293人(50.3%)。</li> <li>・ 構成比を熊本県平均と比較すると、第1次産業の比率がかなり高く、サービス産業等の第3次産業の比率が低い。</li> <li>・ 産業別の生産額をみると、平成12年現在で、第1次産業約204億円、第2次産業約817億円、第3次産業1,092億円。</li> <li>・ 経年的には、第2次産業及び第3次産業が増加しており、第1次産業は、平成2年をピークに減少傾向。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1次産業においては、担い手農家や農業法人の育成、新規就農の促進、農業技術の向上及び観光との連携等が必要です。</li> <li>・ 第2次産業においては、地域住民の就労の場の確保や低迷する市町村財政の安定化のために更なる企業誘致が必要です。</li> <li>・ 第3次産業においては、消費者ニーズに対応した個性的で魅力的な活力ある商業の振興が必要です。</li> </ul>
道路・交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本地域内の道路は、国道325号、国道387号が菊池市街地を中心に放射状に配置されており、県道及びその他主要な道路が国道を補完している。</li> <li>・ 本地域に隣接する植木町には、九州自動車道植木ICが位置するとともに、国道3号が南北方向に通っている。</li> <li>・ 平成11年道路交通センサスによると、国道325号の大江町から菊池市街地までが20,889台/日、国道387号の熊本市方面から菊池市街地までが14,503台/日、国道325号の菊池市街地から鹿本町方面が10,014台/日と国道の交通量が多い。</li> <li>・ 公共交通機関は、路線バスのみ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流促進と新市の一体性の速やかな確立のため、国道325号の4車線化や国道387号の機能強化とこれらを補完する県道及びその他主要な道路の機能強化及び公共交通機関の充実が必要です。</li> <li>・ 少子高齢化等に対応するためコミュニティバスの整備が必要です。</li> </ul>



項目	現状	課題
教育・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本地域内には、幼稚園が5箇所、小学校14校、中学校5校あり、児童生徒数は、減少傾向であり、平成12年現在で、幼稚園児509人、小学生3,626人、中学生2,071人。</li> <li>・ 近年の児童生徒の状況は、教育制度の充実とともに学校外での教育機会が増えた一方で、いじめや不登校の問題、青少年非行の低年齢化、家庭や地域における教育力の低下等、教育環境において深刻な問題も生じている</li> <li>・ 人口・世帯数の推移からも分かるように、本地域においても少子高齢化が進んでいる。</li> <li>・ 高齢者・障害者ニーズの多様化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校と家庭・地域との連携を深めるとともに、教職員の資質や指導力の向上及び小人数指導の充実等、これまで以上に教育環境の充実と特色ある教育の推進が必要です。</li> <li>・ 高齢者・障害者福祉においては、高齢者や障害者が生きがいを持って生活できるように、家庭や地域の中で暮らしやすい環境づくりを促進する必要があります。</li> <li>・ 児童福祉においては、子どもたちを安心して産み、健やかに育てることができるよう子育て支援の充実を図る必要があります。</li> </ul>
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれ各市町村の中心部に集中しており、地域全体では、南西部の市街地に片寄っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近接している施設等の統合や、施設・サービスの空白地区への新規設置など、新市として効率的な施設配置を検討する必要があります。</li> <li>・ これらの施設は特に住民生活との関わりが深いものであるため、住民生活への影響に十分配慮するとともに、地域特性や地域のバランス、あるいは財政事情も考慮の上検討を進めていく必要があります。</li> </ul>
他市町村との連携状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 菊池郡市を中心として一部事務組合等が組織され、市町村の枠を超えた広域的な行政運営が行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広域的な行政需要を的確に把握し、効率的で質の高い行政サービスを提供していくために、重複する一部事務組合等の再編や計画圏域等の見直しを検討する必要があります。</li> </ul>

項目	現状	課題
行財政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 四市町村の歳出総額は約 240 億円で、歳出規模は類似団体をやや上回っている。</li> <li>・ 財政力指数については、類似団体を下回っている。</li> <li>・ 経常収支比率については、類似団体を上回っている団体もあり、やや財政構造の硬直化がやや進んでいる。</li> <li>・ 公債費負担比率は類似団体を上回る団体もあり、公債費の負担が多いことがうかがえる。</li> <li>・ 地方交付税による財源措置分を除いた指数である起債制限比率では、類似団体をそれほど上回らないことから、公債費の多くは地方交付税により措置されているものと思われる。</li> <li>・ 歳入をみると、四市町村の地方交付税の合計が約 94 億円、類似団体が約 83 億円で差額が約 11 億円。</li> <li>・ 職員は、合計 567 人。内訳は、一般行政関係 424 人、教育関係 96 人、公営事業会計関係 47 人。</li> <li>・ 年齢別職員数は、29 歳以下が 118 人、30 代が 123 人、40 代が 151 人、50 歳以上が 175 人で、50 歳以上の割合が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 類似団体より大きく劣る指数はなく、これまでの財政運営の努力がうかがえるところですが、将来的には地方交付税の削減等市町村の一般財源の減少が見込まれる中、行政改革を含めた財政運営の健全化への取り組みが必要です。</li> <li>・ 今後、地方交付税は、削減されていく方向であり、こういった状況に対応するため、財政の効率化・健全化が必要です。</li> <li>・ 性質別歳出金額をみると、類似団体との差額が大きい項目として、投資的経費が約 16 億円、人件費が約 7 億円、物件費約 5 億円、公債費約 4 億円高くなっており、効率的・効果的な財政運営が必要です。</li> <li>・ 職員については、定年退職者等を考慮しながら、人員配置計画を作成し、職員数の適正化を図る必要があります。</li> </ul>